

第2回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和4年3月22日（火）午後7時00分～9時00分

【出席者】 中平光高委員、中平良子委員、伊賀守委員、田頭誠志委員、鈴木幸代委員、村井洋平委員、栗原あゆみ委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課課長、上川地域振興課副課長、畦地町民生活課副課長、都築地域振興課係長、井口地域振興課主査
大元まちづくり推進室長、大河原文化的施設整備推進室長、西尾文化的施設整備推進室主査、河原まちづくり推進室主任、松下文化的施設整備推進室主任

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

- 挨拶：富田地域振興局長
- 委員自己紹介（簡易）

（田頭誠志会長）

時間になったので始めたいと思う。それでは次第に沿い、（1）文化的施設（図書館）十和分館についてから取り上げる。本日は企画課のまちづくり推進室と文化的施設整備推進室からそれぞれ職員に来てもらっているので、まずはこの議事の説明からお願いします。

- 文化的施設整備事業の説明あり／大元まちづくり推進室長より

（田頭誠志会長）

はい、説明は以上であったがこの事業に対してどんな反対意見がある？

（大元まちづくり推進室長）

令和2年度に、文化的施設建設反対の嘆願書が出された。この嘆願書に名前を連ねた人数は750名ほどで、町長へ提出された。その後、嘆願書を持ってこられた団体と意見交換を行った。内容としては、例えば施設の面積のことや事業費のこと、ランニングコストのこと、建設場所に関する事などで、計画の中身をもう一度見直してはどうかといったものだった。

（田頭誠志会長）

建設場所の代替え案はあったのか？

（大元まちづくり推進室長）

町としては3つの候補地から選定した。現建設予定地は町有地でもあり、最も安価ではないかといったことや、市街地再生計画の歴史文化ゾーンに含まれる場所といったこともあって、適しているのではないかという結論に至った。

（田頭誠志会長）

承知した。委員の皆さん、ここまでで何か質問等は？

— 意見等なし —

（田頭誠志会長）

はい、それでは次に進めましょう。

- 文化的施設サービス計画の説明あり／大河原文化的施設整備推進室長より

(田頭誠志会長)

はい、説明を聞いて委員の皆さん質問があればお願いしたい。

(村井洋平委員)

十和分館について。先ほどの説明で、令和6年に本館ができるまでに十和分館の設置（施設整備）に向けた具体的な検討を進め、方針を決定するというスケジュール案が示された。話を聞いていると、もう十和分館を建てるのが決まっているのかな、と思ったが…検討次第ということ？建てますよ、と言った方が検討が進むのではという気がする。検討の仕方によっては、議論が二度手間になることもあるんじゃないかと思う。令和6年までに具体的に何を検討するか…。自分としては、フラッと立ち寄れる空間がいいと思う。

(大元まちづくり推進室長)

村井委員のご質問は比較的核心を突く部分と思うので、お手元の配布資料（広域なまち全体にひらかれ、各地域をつなぐ（イメージ図））をご覧いただきながら説明させていただきたい。この図のとおり、この広い町にどうサービスを浸透させていくか。窪川地域に新たに文化的施設が建ち、大正地域には図書館の大正分館がある。しかし、十和地域には核となるサービスの拠点が無い。十和分館が要るのではないか、町民の意見が聞きたいというのが町の考え。ただ、移動手段を持たない人たちへのカバーということで、移動図書館の話がある。町内の老人クラブからも、そんな仕組みはないかと声があった。それと、サテライトで空白地域をカバーしたい。ひとつの核になるものが要るのではないか、という思い。

(田頭誠志会長)

さきほどの村井委員の質問は、先日開催された町の3月議会の質問と被る部分があるように思う。窪川にできる文化的施設と、それ以外。関連性を持っているから予算や議論の無駄を生む。一元的管理は、窪川にできるコアとなる文化的施設でやる。その辺をもっとシンプルに整理して、プライオリティの1番は本館建設なのではないか。各機能のすみ分け、整理が要るのではないか。サテライトは既存の施設を利用して、図書館の力をうまく隅々まで使えるようにする。移動図書館は誤解を生むのでは。これはデリバリーじゃない？そうした方がすみ分けができるのでは。借りたいものを現地へお届けする。主たる考えは配達、デリバリー。まず何を作らなければならないのか、もう少し整理をお願いしたい。

(大元まちづくり推進室長)

もし仮に窪川に集中したとして、他地域が置いてけぼりになるのでは。やはり、同時並行的に考えたい。サテライトは自主的に立ち上がる、「自分たちやりたいです」という手挙げ方式。旧小鳩保育所はたまたまそうなったけれど。移動図書館は、デリバリーではない。運転手だけが現場に行けば良いということではなくて、隣に司書も乗って様々なニーズを拾ってくることもイメージしている。

(田頭誠志会長)

まずは拠点を作らないと。言っているのはそれをストップして、ではない。移動図書館とサテライトを作って充実ではない。サテライトを手挙げ方式にすると、サービスが行き届かない地域が必ずできる。だから例えば、学校図書館に機能を持たせるとかいうのもひとつの手ではないか。

(大元まちづくり推進室長)

もちろん学校もやる。サテライトは自主的な取組を待つしかない。

(田頭誠志会長)

学校が無くなる理由が必ずある。現実是非常に厳しい。そんな地域で手を挙げないかといっても現実的ではない。

(大元まちづくり推進室長)

老人クラブでは、本を団体貸出できるということを知らなかったという声がある。そういう制度がすでにあるということ。だからニーズを把握出来たら、サテライトはできるのではないか。どうしても分館があってもサービスが行き届かないところはある。それを移動図書館でカバーできるの

ではないかと考えている。

(田頭誠志会長)

考え方としては、コア（核）となる図書館が無いのに…という意見が出てもおかしくないのではと思う。では、文化的施設の説明を続けて欲しい。

(大元まちづくり推進室長)

十和分館の整備方針は、町長の想いとしては「整備したい。」ただ、整備ありきじゃなくて住民の声を聞きたい。必要性やニーズを把握し、十和分館の在り方を見極め、意識の醸成を図った上で、地域との合意のもとで進めたい。必要であれば、ハード整備よりもソフト面を進めることもできる。また、図書機能だけの分館かどうかも含めて検討して欲しい。

今日確認したいのは、十和分館検討におけるまちづくり推進協議会としての位置付け（役割）がまず一つ。地域住民への周知と理解をどのように進めるか。

そして二点目は、まちづくり推進協議会の進め方とスケジュール。いつごろまでにどんな結論を出すのか。三点目は、旧小鳩保育所における取り組み。十和分館と勘違いしないようお願いしたい。続けて、検討の一点目として十和分館整備の必要性と在り方。図書館「分館」のみの機能とするのかどうか。検討の二点目は、整備するとした場合の設置場所と、新築又は既存施設の活用（改築）の検討。ただ、これらをしてくれということではなくてあくまでも今日は案としてご提示した。

(田頭誠志会長)

はい。十和分館整備に関しては、予算の天井は考えなくて良いのか？大きくて良いものを作ってくれ、と言ったら議論は10秒で終わる話じゃないのか。

(鈴木幸代委員)

いえいえ。今更窪川にできると決まったものに水を差すかもしれないが、十和の高齢化率は50%を超えている。高齢者のほとんどはすでに移動困難者か、もしくは予備軍。窪川の計画を聞いて、「ずいぶん立派だな」と率直に思う。もし十和にできるならもっと身の丈に合ったもの、隅々まで無駄なく使える施設が良いと思う。建材も地元で最大限、調達してほしい。町内で利益が回せるように考えて欲しい。

(田頭誠志会長)

はい。他委員さんほかにご意見はないか。

(村井洋平委員)

十和分館を整備するかどうかを含めて、インフラ（日々の生活を支える基盤）だからこの議論を住民に任せられても困るというか…。存在して然り、なのでは。

それと文化的施設整備推進室の人員体制は、窪川のコア施設建設以外にも同時並行で様々な議論をしていくと人員は足りる？

(大元まちづくり推進室長)

住民主体で考えたい。町としては整備しますと言い切っているが、住民側に確認はしたい。十和分館に関して現在の体制で言うと、本当は図書館に関する業務は本庁の生涯学習課にあたり、十和局の業務分担だと町民生活課が担う部分。だが今は、地域振興課がメインで担っている感じになっている。もちろん、協力して様々な事に取り組んでいかなければならない。

(田頭誠志会長)

大正は？

(大元まちづくり推進室長)

図書館大正分館があるが…

(田頭誠志会長)

連携はうまくいくのか？

(伊賀守委員)

ちょっと構わないか。意見として。自分は、思い切った取り組みをしないと十和は生き残れないと思う。だから十和分館にしても、ある程度作ってもらえたらいいと思う。ただ、自分は大道に居るので思うことだが大道が生き残るにはサテライトやりませんかと言って、やれなかったらそこは残れない。住民側の自発的な動きが無ければこの件に限らず、そう思う。誰も動かんかったら、じーっと無くなっていく。

(田頭誠志会長)

結局、イノベーションを起こさないといけない。窪川にできる本館は周囲の意見を聞きすぎている。多くの人の意見を聞きすぎるとどうなるかという、平均的なものにしかならない。つまり、普通のどこにでもあるような図書館になってしまう。それで良いのか。伊賀委員に、良い意見をいただいた。

(富田地域振興局長)

4月からは旧小鳩でサテライトの動きが始まる。自分たち自身で動きますと言ってくれる団体がある。行政としてはそれを評価しているし、じゃあ任せようとなった。今日お越しの栗原委員は団体の副会長でもあるので、サテライトが始まって以降は取り組みの中で得た気づきなども今後聞いてみたい。

(田頭誠志会長)

はい。それでは時間が半分ほど過ぎたので、ここで一旦休憩をとる。10分後に再開する。

— 休憩 —

(田頭誠志会長)

時間になったので再開する。先ほどの議題と関連があるので、事務局から議事(3)旧小鳩保育所のリニューアルについて、説明をお願いしたい。

○旧小鳩保育所のリニューアルについて説明あり／井口地域振興課主査より

(田頭誠志会長)

はい。これに関連して栗原委員から何か一言お願いしたい。

(栗原あゆみ委員)

旧小鳩保育所で何をやるかはさきほど事務局から説明のあった通りだが、図書のサテライト貸出もそうだが、私たちは地域の人たちのちょっとした困りごとを聞ける場所にしたいと思っている。例えば、高齢者がスマートフォンの操作が分からないとか。手助けになればと思う。また、農業にしてもバイトを募集したくてもどこも農繁期は人手が不足する…という困りごとなどに、地域の情報掲示板を旧小鳩園内に設置して、情報を出したい側と受け取りたい側を繋ぐ役目を担いたい。もちろん、SNSでも発信する。この地域に何が足りないかなどのデータも収集したい。この十和から世界に羽ばたく人が出てくればいいなと考えている。

(田頭誠志会長)

なにか企画課、補足ある？サテライト？

(大元まちづくり推進室長)

サテライトは、既存の仕組みである図書の団体貸出を利用して、団体が旧小鳩まで借り受けた図書を、希望する人に貸し出す、つまり「また貸し」をしようとするもので、また貸ししたことによって本の在り処が不明にならないように管理する電子ツールが「カリコレ」と呼ばれるアプリケーションソフトになる。お示ししたサービス計画のなかでも初年度からの位置付けにしておき、お話し感もありながら実績を見たい。1ライセンスで5契約まで可能。

(田頭誠志会長)

旧小鳩保育所は、十和分館ではないね？

(大元まちづくり推進室長)

はい。栗原委員がお話されたような図書サービス以外のサービスを含んだ分館が欲しいとか、そういったご意見も聞きたい。

(田頭誠志会長)

あくまでも分館を作る、作らないの議論ではない。学びの機会均等を町が保証すべきという考えが根底にある。

(鈴木幸代委員)

利用料は？(旧小鳩保育所の貸出料金)

(富田地域振興局長)

公益性のある取り組みなので、免除している。

(伊賀守委員)

旧小鳩保育所への行き方とか、十和に住んでいる人間でさえ分からない人は多い。自分ちの子どもをその保育所に行かせてなかったら、それ以外の人は行く用事もないので。大道の人とか、特に離れているし分からないと思う。周知の仕方をよく考えて頑張してほしい。

(村井洋平委員)

駐車場が遠い。近くの空き店舗駐車場に3台ぐらい借りられたらいいのと思う。

(伊賀守委員)

中心市街地に住んでいる人じゃないと知らないかも。何をやりゆうかとか、行き方、車をここに停めてください、とか。

(田頭誠志会長)

広報の仕方や、駐車場のことはここからの頑張りだと思う。

(村井洋平委員)

3年間の利用実績は取る？

(栗原あゆみ委員)

借り受ける「育つ会とおわ」としてデータは蓄積しようと思っている。どんな本がこの地域の人に好んで読まれているか、とか。

(鈴木幸代委員)

個人的には、旧小鳩に来る方の移動手段と、年代が知りたい。

(栗原あゆみ委員)

基本的には自力で来れる人を想定している。だから、歩きか車が移動手段になると思う。

(伊賀守委員)

バスで出てきた人なんかは、待ち時間が生まれて結構暇している。そういう人たちもターゲットにできたら良いんじゃないかと思う。

(富田地域振興局長)

あす早速、公共交通の会議があるのでバスに旧小鳩のチラシを貼らせてほしいと頼んでみる。

(田頭誠志会長)

サテライトとしてはこのエリアを想定しているっていうのがないとデータ自体が役に立たない。そういう(サテライト)がいくつかできて、カバーできる範囲が広がる。現実的なことを言うと、う

ちのスーパー（彦市）から三好屋さんまでの道のりとか、彦市から局の喫茶店までとか、ちょっとした距離だけど歩けないという高齢者が結構存在する。買い物をして重くて持てないとか。そういうのが、日々起きる。ハードカバーの本って重たい。余談だが…
他には？

（中平良子委員）

旧小鳩保育所内で飲食はできる？

（井口地域振興課主査）

現在のところ想定していない。ただ、室内には畳の部屋もあるのでどこかでお弁当などを買ってきてもらったら、室内で食べてもらう事は構わないと考えている。

（田頭誠志会長）

他には？ぜひこんなことやってほしいということはない？

（伊賀守委員）

旧小鳩から逸れるかもしれないが、スマートフォンの電波が入らないところがまだ町内にある。どこでも使えるようにしてほしい。文化的施設にしても、スマホから検索とかできることは非常に便利で、遠隔地に住む人のサービスの話に通じると思う。

（富田地域振興局長）

携帯不感地域の話と思う。技術の進歩を待つしかない部分もあるが、またこの件に関しては企画課と話をさせてもらう。

（伊賀守委員）

地区からの意見の突き上げが要るろうと思う。

（田頭誠志会長）

局長よろしく。では次の議事に移るので、事務局から十和地域の最近の動向について報告願いたい。

○十和地域 最近の動向について報告あり／井口地域振興課主査より

（田頭誠志会長）

これに対して何か質問やご意見等ないか。

— 意見等なし —

（田頭誠志会長）

はい。次回のまちづくり推進協議会は4月か5月に開催したいと思う。会の半分は文化的施設十和分館について、残り半分はフリーテーマとし、まちづくり推進協として令和4年度に取り上げたいテーマについて話し合いたい。

（富田地域振興局長）

一点だけ。十和村誌についてお話ししたい。十和村誌は昭和59年以降のことが書かれていないので約20年の空白期間がある。令和4年度以降、整理したい。協議のための予算は確保している。

（田頭誠志会長）

早急にしないと歴史を知っている人が存在しなくなるので急いだほうが良い。

では、次回フリーテーマを決めたいので委員の皆さんは意見を持ち寄っていただけるとお願いしたい。それでは本日はこれで閉会とする。次回もよろしく。

— 終 了 —